

第5回中野市保育所あり方検討懇話会会議録（要旨）

日 時	令和2年11月5日（木） 14:00～16:10
会 場	中央公民館 205 教室
出席者	<p>小林芳文委員、片所年子委員、樺澤一夫委員、小野良一委員、宮澤栄一委員 中嶋祐子委員、黒岩文子委員、富岡幸子委員 8名（欠席：岡村将翔委員、松矢美知委員、高木さやか委員、町田真里子委員）</p> <p>【アドバイザー】太田光洋先生</p> <p>【事務局】 子ども部長 小林由美、保育課長 戸田修三、課長補佐兼保育係長 堀米一志、 施設係長 豊田正樹、施設係 高藤直樹 5名 計 14名</p>
内 容	<p>開会</p> <p>協議 保育所のあり方に関するアンケート集計結果について 事務局説明</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>統廃合と民営化については、保護者に判断材料がない、情報が足りないと思われる。 保育サービスは、他の地域と比べた時、一般的に行われている事についてはやってほしいという事と、アンケートで病児病後児が多くなっている所は、病気の時は家で一緒に見てほしいというメッセージ等、行政側の姿勢を出していく必要もある。</p> <p>アンケートの結果として、客観的な第三者の評価よりも、そこに所属している人の評価というものは、簡単にいうと甘くなる。そういうバイアスは必ず掛かる。基本的には、普段行われている保育のなかで保護者との関係はしっかり作れていると感じた。</p> <p>(委員)</p> <p>今現在の保護者が、統廃合・民営化をどのように感じているか、情報を掴むという点ではわかりやすい結果が出た。 統廃合の対象になりそうな園も小さい園の方は、人数が少ないと感じていても、統廃合は考えたくないという意見も出ているが、子供が小学校に入学した時に不安もある。そういう親の気持ちが読み取れる資料だと思う。 これを踏まえて、市としてはこういう方向に舵をきっていきたいという材料になる。 基本的には、親御さんができるだけ近く、小学校の学区の保育園に通わせたい、</p>

いろんな保育サービスにも対応してほしいという要望も出ているので、そこをある程度示していくベースはできた。こちらの方針として、方向性を出していても良いと思う。

(事務局)

今日の懇話会ではアンケートの結果と、ある程度の分析が出来た。今後は市の考えを懇話会に示し、方針、方向性を提言書の前段としてお示しし、認めていただけるなら、更に提言書の素案をお示しして、懇話会の提言を市長へ挙げていきたい。

(委員)

古くなっている長丘保育園に関わって平野・松川・高丘のようにさらに人数が多く、建物が古い園もある。

長丘をあの場所に新しく建てていく方向がいいのか、施設の状態が気になるという声のでている施設へ投資していく方向がいいのか、その判断材料としてアンケートは使える。

多少、通勤距離は遠くなり、現状の1km以内で、保育園があることは実現できないが、大勢のなかで学べるといった良さがあれば市としてはその方向を提言していくと良いのではないか。

(委員)

広報なかのに掲載された、私立のPRの意味は。

(事務局)

広報なかの編集担当課から未満児保育特集の提案があった。新しい小規模保育事業所の紹介、また、これまで紹介したことのなかった私立園の紹介を行った。民営化を進めるといった事ではない。入園申し込みも始まったところで、私立園の紹介も行った。

(委員)

小規模保育事業所は、市の許可がいるのか。

(事務局)

市の認可施設である。

そういったことを皆さんご存知ではない。入園に際し、保護者も不安になる部分なので。

(委員)

良いことが書いてある。長野県は公立保育園に通う児童の割合が全国で一番高い。中野は、長野県の中でも高いほうなのか。データはないのか。

(事務局)

長野県は、公立の割合が高い。

山間地域は、どうしても公立のほうが多く、中野も公立が 11 園、私立の保育園は 1 園、私立の認定こども園が 1 園、私立の幼稚園が 1 園で、圧倒的に公立が多い。季節保育所から始まった部分もあり、各地域に 1 園ずつというのが、以前から残っている。一方で幼稚園が少なく、仕事をしていないと就学前に預ける所がないという意見は、いただいている。

(事務局)

アンケート結果で民営化に対して情報不足と出た事と、広報への掲載のタイミングがたまたま合ってしまった。

(委員)

ひよこ保育園は、圧倒的に虫歯が少ない。

食事はほとんど手作りし、市販の物は一切使っていない。使っているのは、牛乳と果物だけ。

延長保育での保育園の生活が長いことで虫歯が少ない。フッ素のような薬品に頼らない保育をどういうふうにしていくのが大事なのではないかと。

それぞれが、特徴ある保育をすることが悪い事ではないが、私立は、本当に大変な園もある。市の財政負担が減ると言うが、民間委託しても市の保育財政を減らしてほしくない。

(事務局)

資料の 9 ページを見ると、ひよこ保育園が圧倒的に保育の方針が良いと答えている保護者がいるのがよくわかる。給食に関しても他の園よりも断然高い。私立に通ってらっしゃる方は、違う目線で回答されている方が多い。

市の負担が減ったからと言って、質は下げてほしくないとの話だと思うが、公立も含め、保育の質は下げていくべきではないが、市の財政も厳しい。市全体を見ながら子育てにどれだけかけていくか考えていかなくてはいけないと考えている。

(委員)

中野市として何を大事にして、どこにお金を使うのか、中野市としての考え方が問われるアンケートだと思う。

担当している課の人たちの想いをきちっと上に挙げていただいて、未来をつくる子ども達を本当に大事にしていきたい。コロナで自主登園、自粛をしていただいた結果、本当に子供に目が行き届く。

そういう意味で、今回のコロナは気付くいい機会だった。

効率化や民間委託が財政的に助かるような考え方は、考え直していただきたい。

(アドバイザー)

中野市の全ての園でアンケートにできてきている保護者の意見をすくい取っていくことは大事なこと。

民営化で浮いた分のお金がそのまま減るわけではなく、それを使って今ある園の保育を充実させていくことを一緒に答申として出していくことが必要。

(委員)

子育てに優しい市だとか、キャッチフレーズを出しているが、待機児童を出してしまったことは、すごくマイナスになる。

中野市は子育てにすごく力を入れている、予算も使って充実しているという方向性を出していくべき。

(委員)

都会から来て、安心、安全な保育園に預けて、楽々仕事ができ、今の若い人たちが中野市に税金をおとしてもらえるようなそういうことが大事な気がする。

(委員)

病児病後児保育のパーセンテージが高いことについて、中野市内、二カ所くらいあるかと思うが、使いにくい。ハードルが高すぎて預ける選択肢に入っていない。病後児保育を使いたい家庭はたくさんある。

(アドバイザー)

手続きが煩雑になって、すぐに使えない。多く作っても予定していたほど使われないこともたくさんあり、使いたい時には、いっぱい使えない。

利便性、人の配置等、ソフト面を工夫すれば使いやすくなると思う。

(委員)

ひよこ保育園は県下で初めての病後児保育所。いろいろ打ち合わせするなかで、使いやすくなっている。

病後児保育はとても大事。集団にいれるのが、ちょっと心配というお子さんについては共働きの保護者にとってはすごく大切。

民営化のメリット・デメリットについて

事務局説明

(委員)

公立に比べて、正規職員の割合が多くなることについて、私立園の方針でそうしているが、その分だけ賃金が上がる。良い部分だけ見ないでほしい。

保育士の賃金改善が進んでいるが、処遇改善等の加算が決まる時期が不安定なので賃金に反映しづらい。システムを検討してもらえるとありがたい。

(事務局)

私立と公立の保育士の賃金には差がある。公立は、年々昇給していくシステムだが、民間の保育士は上げ幅が少ない。それを補うのが処遇改善の加算等。システムについては、国に検討してもらわなければいけない部分。

民営化のメリットについて、浮いてくる財源を子育てに使ってほしい、それは本当に私たち子育て支援に携わる仕事をしている者としては当然そこは確保していきたい。私立にも何らかのかたちで還元できればと思う。

そうした財源を捻出するための方法として、統廃合・民営化もひとつの方法だと思う。皆さんの意見をききながら、進めていきたい。

(委員)

保護者の気持ちも統廃合についてはよく読み取れ、ただ民営化については良くわからない、情報不足の感が強い。そうした場合に現時点のあり方懇話会で、民営化の方向までは出しにくい状況だと思う。

もっと民営化の良さ、メリットが皆さんに広がって、共通理解されるようにならないと不安というか早い気がする。

(事務局)

老朽化した施設を民間の力で整備するという方法もある。

少しずつでも民営化のメリットを皆さんにご理解いただけるような努力をしていきたい。

(委員)

民営化する場合、事業者の選定方法は。

事業者が手を上げてくれる人がいないとだめなんですよ。

(事務局)

基本的には公募です。

(事務局)

最終的に民営化に行きつくまでには3年以上はかかる、それこそ引継ぎ保育まで含めるとかなり時間がかかる。

できれば早めに方針をだしておきたいと考えている。当然、住民への説明が必要。保育園の申し込みが始まっている中、この先この子たちがみんな入れるのかという心配な思いもある。とにかく保育園に入りたいという方が第一。いろいろな方法を検討していきたい。

(アドバイザー)

例えば民営化を少し先にして、まず古く大きい園を建替える。そこは今まで通り公立として、民営化する園が統廃合も含めて、その先という選択肢もあると思う。

(事務局)

先ほど言うように、手を上げてくれる方がいなければ市で建てなければいけない。

(委員)

公設民営という考え方は。

(事務局)

例えば、建築年度が新しい保育園を民営化というのはある。

(委員)

民間が保育所を建設することは、財政面でも大変なこと。

財政的な部分を、国、県、市でどのくらい負担してもらえるのかが基本になる。

全て、公立で建てるよりは負担が少なくなると思う。

(事務局)

茅野市、岡谷市では老朽化で建て替えが必要な公立園を民営化している
土地は市で用意し、そこに建設、運営をしてほしいというやり方をしている。
施設整備については補助金、借金の利子分を補助しているところがある。
そのほうが、施設整備が早く進む。

(委員)

土地を確保してくれるのは大きい。

土地を市が確保してくれるのは、民間にとって、ありがたいことだと思う。

(事務局)

もし、民営化ということになれば、手を上げやすいような条件の整備を行う。
一番は保護者の理解。丁寧に説明していかなければいけない。

閉会

次回は12月17日(木)開催予定